

光ファイバ整備の円滑化のための収容空間情報等の開示の在り方に関する検討会（第5回）
議事要旨

1. 日時

令和6年3月29日（金）17:00～17:45

2. 場所

Web会議

3. 出席者（敬称略）

（1）構成員

関口座長代理、江黒構成員、桑津構成員、神保構成員
池田構成員（株式会社NTTドコモ）、井上構成員（東日本電信電話株式会社）、
小林構成員（エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ株式会社）、
佐々木構成員（一般社団法人電気通信事業者協会）、
鈴木構成員（ソフトバンク株式会社）、関川構成員（KDDI株式会社）、
藤本構成員（西日本電信電話株式会社）、鬼木構成員（送配電網協議会）、
鹿野構成員（東京電力パワーグリッド株式会社）、
松本構成員（関西送配電株式会社）、安部構成員（東日本旅客鉄道株式会社）、
関口構成員代理（一般社団法人日本民営鉄道協会）、
藪内構成員代理（西日本旅客鉄道株式会社）

（2）オブザーバ

関係府省：

内閣府規制改革推進室、資源エネルギー庁電力基盤整備課、国土交通省鉄道局技術
企画課

要望事業者：

株式会社TOKAIコミュニケーションズ、ビー・ビー・バックボーン株式会社

（3）事務局（総務省）

井上料金サービス課長、堀内基盤整備促進課長、西潟データ通信課長、竹内料金サー
ビス課課長補佐、小川基盤整備促進課課長補佐

4. 議事

（1）取りまとめ案について

- ・ 事務局説明
- ・ 意見交換

（2）調査結果の報告

- ・ 事務局説明
- ・ 質疑応答

5. 議事の経過

事務局より第4回会合で合意された論点整理を踏まえ、本検討会の取りまとめ案について、説明が行われ、意見交換を行った。その後、データセンター間等におけるデータ通信量の現状と見通し等に関する調査研究について、事務局より報告があり、質疑応答を行った。会合中における主な意見の概要は次のとおり。

(1) 取りまとめ案について

- ・ テーマの特性上、情報を全てオープンにして、自動化してしまうようなコンシューマー向けのネットビジネスとは異なる点が明らかになっているので、今回まとめられたB to Bの話し合いのルールやガイドラインという枠組みの中で決めていく、検討を進めていくという基本的な総括のポイントは正しいと認識。
- ・ この難しいテーマについて、様々な方から前向きな御提案が多々あり、よくまとめることができるとも良かった。また、これまで様々な方にヒアリングに対応いただき、その過程で、こういった情報通信インフラに関して、セキュリティ面でも、あるいはインフラの整備を前向きに進めていく観点でも、関係者の情熱や熱意を感じられた。
- ・ 私も色々な検討会、審議会等に参加してきたが、今回感銘を受けたのは、開示元事業者と要望事業者の間の認識が、相当程度融合していった点である。事業性と経済性、規制改革も含めて何を目指していくべきかという合理性、そして、安全保障と安全に関する合理性というものは本来、対立しやすい論理を持っている。双方が合理性を追求していくと、一致点がなかなか見つからないというのがこの問題の性質だが、議論を重ねることによって、お互い譲り合うところを譲り合い、最も良い形で整理していくという認識が固まったことは、検討会として理想的な形だった。その主な要因は、合理性のジレンマにそれぞれのステークホルダーが真摯に取り組んだことによるのではないか。
- ・ 今回の取組内容を実際に運用する仕組みに落とししていく際に、使い勝手の良し悪しや、うまくいかないケースが出てくると思われるので、本総括をまとめた後も、定期的にアップデートしていくことが引き続き重要。

(2) 調査結果の報告

- ・ データセンター間の通信という言い方をすると、説明のように、ダウンロードで動画を見ているという利用形態が、ある意味、圧倒的に多いだろうというのは肌感と合っており、データセンター間通信だけがほかと比べて突出して伸びていくというのは違うと思う。
一方で、「総括」で指摘されている、印西から東京都心といったケースのように昔からデータセンターがあったエリアが溢れてきて、新しいエリアにデータセンターを作るときに光ファイバが伸びていく中で、想定よりも光ファイバが多く必要になるという見立ては、現場の肌感

とも合っている。

- ・ 光ファイバ整備と言ってしまうと、幅広く全てのエリアをカバーしていく議論を想起すると思うが、今回のデータセンター間通信に関する議論では、「一村一品」のように「一村一データセンター」ではないので、ある程度、需要の集中地をつなぐルートを見ながら議論していくものと認識している。その際、説明のあった東京・大阪間、都心とその近傍・近郊エリアといったルートがポイントになるだろう。データセンター間の接続に注目すると、ひたすら面的にカバーするよりは、パスをうまく設定して、ゾーンで集中するところを見極めていくことがポイントになるように思う。
- ・ 新しい動きがあるとなれば、北海道や沖縄といった、既存の都市近郊エリアとは別のエリアで、北欧と同じイメージで急速にデータセンターが整備される場合だろう。そういった展望、動きが出てくれば先行的に光ファイバ整備に取り組むこともあり得るのではないか。（事務局より、デジタル田園都市国家インフラ整備計画において北海道や九州の拠点整備に触れている点を紹介し、引き続き、動向を注視していく旨、回答。）

※取りまとめ案については修正意見がなく合意されたため、取りまとめ案の今後の取扱いは新美座長及び関口座長代理一任となった。また、次年度以降についても引き続き検討すべき事項やフォローアップすべき事項については、本検討会で継続検討・フォローアップを行うこととなった。

以 上